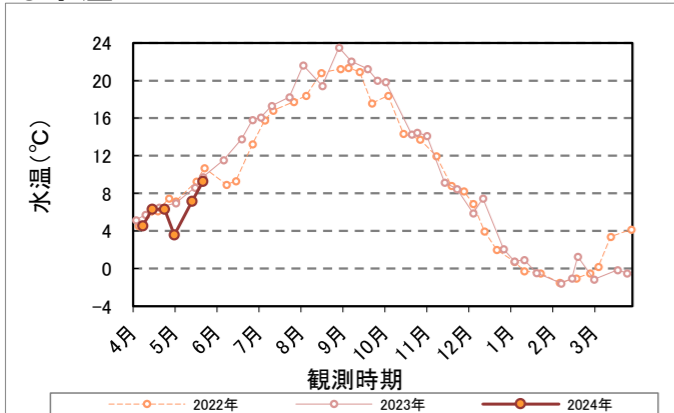


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2024年5月)

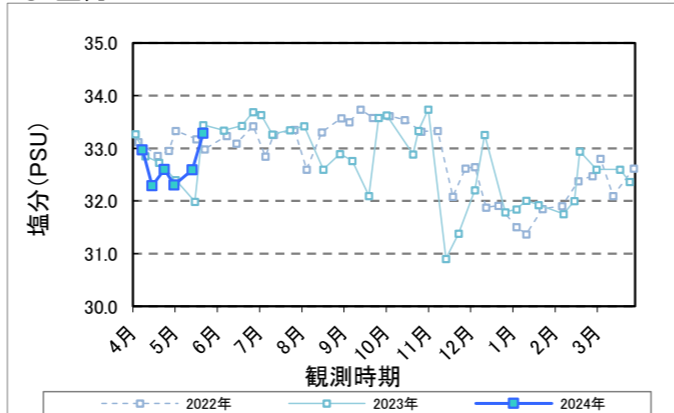
※海洋観測：紋別市
※動物プランクトン分析：(株)エコニクス

海洋環境データ

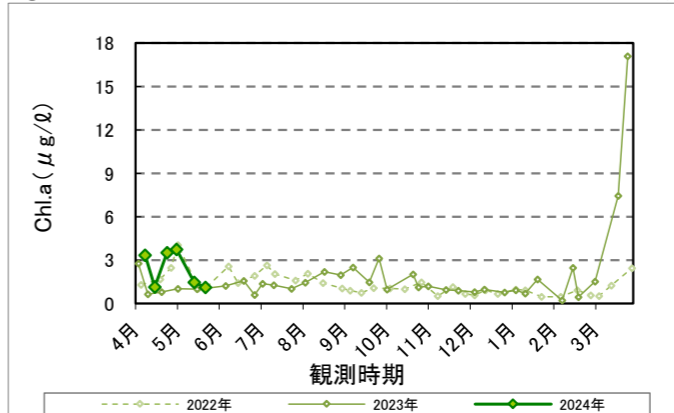
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



出現量の多かった種類



・Pseudocalanus newmani
(カイアシ類：シュウド・カラス・ニューマニ)
体長：♀0.9-1.5mm、♂0.8-1.2mm。冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季最優占カイアシ類の1種となる。



・Oithona atlantica
(カイアシ類：オイソ・アトランティカ)
体長：♀1.1-1.4mm、♂0.8mm。太平洋、インド洋、大西洋の寒帯・亜寒帯に分布する。日本では冷水域の沿岸・外洋で普通に出現する。



・Oithona similis
(カイアシ類：ウミケンジソウ)
体長：♀0.7-1.0mm、♂0.6-0.7mm。日本では各地の内海、沿岸、外洋で普通に出現する。各大洋に広く多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。



・Copepoda (nauplius)
(カイアシ類のノーブ・リウス幼生)
カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返し複数の発生段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生残には餌としてのカイアシ類のノーブ・リウス幼生密度が決定的といわれている。



・Fritillaria borealis f. typica
(尾虫類：キザイグ・チキヤ)
殻長：1.4mm。尾は4.0mmまで。オホーツク海、親潮域に豊富に出現する。しばしば濃密な集群を形成する。

概要

Table with 3 columns for dates: 5月1日, 5月14日, 5月22日. Rows include: 平均水温 (°C), 平均塩分 (PSU), 平均Chl. a (µg/L), 沈殿量 (ml/m³), 主な出現種 (listing various species and their abundance), and 備考 (notes).

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl. aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl. a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名 "Thy. inermis" は "Thysanoessa inermis" の略称である。

※種名の先頭に "◎" がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の "+" はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである ([+]出現、[+]やや多い、[+]多い、[+]かなり多い、[+]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである (◆冷水性種、●暖水性種、■汽水性種)。

※5月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：

List of references including: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説, ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑, ③岩国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑, ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica, ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門, ⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus Centropages, ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について, ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類, ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) ざんかん プランクトン, ⑪奥谷 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち, ⑫古賀 (1960) Centropages abdominalis SATOのノーブ・リウス幼生, ⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカララス目カイアシ類の季節的消長, ⑭大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類 Polydora による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況, ⑮榎水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑, ⑯奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑, ⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か、在来種か? : 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する, ⑱西村 (1992) 原色検索日本海産動物図鑑.